

日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

令和2年9月 第1号

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

第1回研修会 福岡市教育センター

JSL 日本語指導教育研究会について

・筑紫丘小学校 池田尚登先生 小田潤子先生 原田徳子先生

日本語サポートセンターの池田尚登先生に今年度の研究主題について説明いただきました。令和元年6月28日に公布・施行された「日本語教育の推進に関する法律」にともない、日本語教育の充実や制度の整備が定められ、国全体で日本語教育の質を上げていく必要があります。今年度もコロナ禍の中ではありますが、福岡市の小中学校全体でより良い指導にあたっていきたいと改めて感じました。

全体研修1 日本語担当教員の役割

・東箱崎小学校 上田渉先生 ・博多中学校 横山小織先生

令和元年度外国人児童生徒等に対する日本語指導者養成研修の報告をしていただきました。「教科と日本語の統合学習」の授業のイメージを教えてください、週1、2回の限られた時間の中でどのような支援が有効かを考えることができました。

・日本語指導とは「子どもの人権を守ること」との話から、移動する子どもたちに「世界のどこでも生きていける学力」をつけることの大切さを感じました。

○教えたことを教えるのではなく、どうしたら在籍学級の学習に参加できるかという一点からすべきことを考えるということがよく分かった。

○日本語指導とは「子どもの人権を守ること」と聞いて、やっぱり学校になかなか来ない子を来れるようにする必要があると思いました。

全体研修3 日本語初期指導について

・博多小学校 合田佐和子先生

1年間の小学校での仕事と中学校での仕事を詳しくお話しいただきました。小学部では、お便りの英訳文書に英語とローマ字で書いた日本語を併用し、少しずつ保護者に日本語を覚えてもらうなどの工夫をされていました。また、中学部の発表では、進路保障について特別措置の最新情報を詳しく共有していただきました。

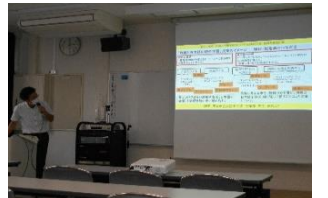
○マジックテープを使った教材は一度見せていただきたいです。

○「なかなか文字が入らなくて困る」ではなく「なかなか入らない子だから」と受け入れているところが良かった。

全体研修4 小中部会 在籍学級の担任の先生との連携について (小) 進路について (中)

・城浜小学校 早田浩二先生 下條道子先生
・城香中学校 日高美和先生 春吉中学校 薄里美先生

日本語指導の児童生徒が在籍する学級の担任の先生との連携する上での実践・工夫を発表し、どのように連携していけばよいかを考えました。



○自分もっている生徒の力を正しく見極めることが大切だとわかりました。

○進路保障のためにそれぞれの生徒の指導計画をカスタマイズしていくことが必要だと感じました。